



スピーカー: イ・ギョヨル / 韓国人原爆被害者協会

広島原爆事件当時、母親のお腹の中で原爆被害を受けた被害者であり、生存者。2018年から韓国原爆被害者協会の会長を務める。この協会は1967年に設立され、日本の広島(1945.8.6)と長崎(1945.8.9)に投下された原爆爆撃により被害を受けた韓国人原爆被害者及びその子孫の健康管理、福祉向上と保護に努める。

こんにちは。私は韓国人原爆被害者協会会長イ・ギョヨルです。

はじめに、核のない世界を目指して世界平和運動に参加するピースボート関係者の皆様に感謝を申し上げます。特に、2021年世界核被害者フォーラムの準備、開催に当たりお祝いを申し上げますと共に、激励の意を伝えたいと思います。

御存じの通り今年の1月には国連で50か国以上の加盟国が批准し核兵器禁止条約が発効されたにもかかわらず、実際に核を保有している米国や中国、ロシア、フランス英国のような大国はこれに反対し、微動だにせず、何の動きもなく中でも韓国と日本は核被害国でありながらこの運動にも参加せず、批准すらしなかったのは極めて遺憾と言わざるを得ません。

1945年8月6日、8月9日は大日本帝国が支配していた時代で、広島には約7万人、長崎には約3万人の韓国人が住んでいました。1945年8月6日は広島、そして、8月9日は長崎で米国の核攻撃を受け、10万人以上の朝鮮人被害者、犠牲者が出ました。5万人がその場で死亡し、5万人が核の被害を受けたまま、祖国の解放とともに帰国しましたが、ほとんどの方が亡くなり、現在、生存者はわずか2100人余りになりました。

人類の歴史を振り返ってみると核兵器は、まさに人類を壊滅させあらゆる地球の生態系を跡形もなく消してしまう本当に危険な兵器です。私たちはもちろん、ピースボートと共に世界平和を追求し、核兵器のない世界をつくる先頭に立つべきであり、特に被害を受けた当事者は、核兵器廃絶運動の先頭に立たなければならないと思います。

核被害者について、私から追加で申し上げますとわれわれ核被害者の1世は言うまでもなく被爆2世や3世に及んだ被爆後遺症の深刻さは言葉では言い尽くせません。原因不明の病気に苦しめられる私たちの2世、3世の子孫らは言葉にできないほどの痛みを苦しみ続け原因が分からず、まともな治療さえ受けられないというのが実状です。こういう状況をみますと本当に核被害の当事者として非常に残念で見るに忍びないです。

いずれにせよ、本日ピースボートが主催する世界核被害者フォーラム2021が成功を収め、核兵器が地球上からなくなり核のない平和な世界の実現を切実に願いながら私の話を終えたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースボートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースボート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>